第5回としま未来会議
令和8年6月1日

令和7年度　各会計仮決算額

区　分	一般会計	国民健康保険 事業会計	後期高齢者医療 事業会計	介護保険事業会計	合　計
予算現額　（円）	186,241,134,000	31,958,583,000	7,832,760,000	23,128,746,000	249,161,223,000
収入済額　（円）	169,924,745,401	30,268,535,104	8,094,271,060	22,745,036,294	231,032,587,859
収入率　（%）	91.2	94.7	103.3	98.3	92.7
（前年度）（%）	(92.8)	(97.1)	(101.2)	(102.8)	(94.7)
支出済額　（円）	161,090,243,028	29,554,040,764	7,768,239,977	22,320,578,717	220,733,102,486
執行率　（%）	86.5	92.5	99.2	96.5	88.6
（前年度）（%）	(89.9)	(93.4)	(98.7)	(98.3)	(91.5)
差引残額　（円）	8,834,502,373	714,494,340	326,031,083	424,457,577	10,299,485,373

一般会計実質収支に関する調書

単位：円

区　分		令和７年度 （仮決算）	令和６年度	増（△）減	備　考
1　歳入歳出予算現額		186,241,134,000	166,466,992,000	19,774,142,000	
2　歳入総額		169,924,745,401	154,531,736,948	15,393,008,453	
3　歳出総額		161,090,243,028	149,692,711,078	11,397,531,950	
4　歳入歳出差引額		8,834,502,373	4,839,025,870	3,995,476,503	
5　翌年度へ繰り越すべき財源	(1) 継続費逓次繰越額	0	0	0	
	(2) 繰越明許費繰越額	1,114,825,434	2,070,206,000	△ 955,380,566	
	(3) 事故繰越し繰越額	4,258,158,000	0	4,258,158,000	
	計	5,372,983,434	2,070,206,000	3,302,777,434	
6　実質収支額（4-5）		3,461,518,939	2,768,819,870	692,699,069	
7　前年度実質収支額		2,768,819,870	2,729,671,243		
8　単年度収支額（6-7）		692,699,069	39,148,627	653,550,442	
9　実質収支のうち地方自治法第233条の2の規定による基金繰入額		3,461,518,939	2,768,819,870	692,699,069	豊島区財政調整基金条例第２条による

令和７年度決算について

単位：億円

	令和７年度		令和６年度		決算増減額
	予算額	決算額	予算額	決算額	(R7－R6)
歳入（A）	1,862.4	1,699.2	1,664.7	1,545.3	153.9
特別区税	402.5	404.4	364.4	363.5	40.9
地方特例交付金	1.1	1.1	13.7	13.7	-12.6
財調交付金	402.0	408.1	379.0	376.4	31.7
財政調整基金繰入金	12.9	25.0	72.5	55.0	-30.0
義務教育施設整備基金繰入金	25.6	0.0	19.5	0.0	0.0
公共施設再構築基金繰入金	88.1	36.0	30.9	0.0	36.0
特別区債	101.7	51.5	43.7	20.7	30.8
歳出（B）	1,862.4	1,610.9	1,664.7	1,496.9	114.0
形式収支（A－B＝C）		88.3		48.4	40.0
翌年度繰越額（D）		53.7		20.7	33.0
実質収支（C－D）		34.6		27.7	6.9
実質収支比率（実質収支／標財規模）		3.8%		3.3%	

※歳入の内訳は主なものを掲載しているため、内訳の合計は歳入総額に一致しない。

【主な繰越し事業】 （）内は一般財源所要額
（事故繰越）池袋保健所移転関係経費（42.6億）
（繰越明許）としま賃上げ促進支援金支給事業経費（3.5億）
（繰越明許）橋梁の整備事業経費（2.6億）

（基金残高の推移）	令和７年度	令和６年度	増減額
財政調整基金	182.2	175.9	6.3
義務教育施設整備基金	207.1	163.0	44.1
公共施設再構築基金	180.7	175.3	5.4
３基金合計	570.1	514.3	55.9

→３基金とも前年度より残高が増加し、今後の財政需要への備えを行った。